

# スキルアップ通信 VOL.167

生まれ持った才能でも努力でも熱意でもない…

## 名経営者・松下幸之助が語った「私が成功したたったひとつの理由」

### ■松下幸之助が語った「成功の理由」

松下幸之助は 1894 年、地主の家に生まれるも、父親の相場失敗により 9 歳で奉公に出る。火鉢店、自転車屋、電力会社での勤務を経て、23 歳で電球ソケットの製造販売会社を創業。これが現在のパナソニックの始まりとなった。

その後の成功は目覚ましく、日本を代表する電機メーカーを築き上げ、長者番付で 10 回もの首位を記録。まさに日本で最も経済的に成功した人物となる。彼は自身の成功を「運が良かった」と強調するのである。実際、幸之助の半生を丹念にたどると、必ずしも計画的な成功ではなかったことが見えてくる。

### ■明確なビジネスプランはなかった

最大の転機となった起業も、実は消極的な選択だった。松下家では、父母、兄弟が相次いで結核で亡くなっており、本人も病弱だった。血痰がでるようになり「死を覚悟した」というが、奇跡的に回復する。ただ、電力会社では学歴もない中、大きな出世は望めない。身体が弱いので、勤務もどこまで継続できるかもわからない。

そこで選んだのが起業という道だった。しかも、最初はお汁粉屋を始めようとしていた。単にお汁粉が好きだったからという理由だったが、妻に反対されたことで、電気器具の会社を立ち上げた。妻の反対がなければ日本を代表する電機メーカーの創業者ではなく、お汁粉屋の主人になっていたかもしれない。

当時、幸之助には明確なビジネスプランがあったわけではない。むしろ、病気による離職を余儀なくされ、生活のために始めた事業だった。しかし、結果としてこの「不運」が、幸之助を起業へと導き、後の大きな成功の礎となったのである。幸之助の病弱さは、皮肉にも経営革新の原動力となった。

創業経営者が直面する最大の課題の一つが、いかに権限を委譲するかだ。バトンタッチの時機を逃し、経営が行き詰まるケースは少なくない。特に、カリスマ的な創業者の場合、「自分でやった方が早い」「任せると失敗するかもしれない」という思いから、権限委譲が進まないことも多い。

### ■日本で初めて事業部制を導入

幸之助の場合、身体が弱いがゆえに、早くから権限委譲を進めざるを得なかった。創業期から妻に頼ることも多く、事業規模の拡大とともに、この傾向は強まっていく。そこで気づいたのが、「人は任されると責任を感じ、工夫する」という心理だった。この経験をもとに、1933 年、幸之助は日本で初めて事業部制を導入する。各事業部に権限と責任を委譲し、独立採算制を敷く仕組みだ。実は、すでに 1927 年には電熱部新設の際に責任者に一任する方式を採用しており、これを全社的に展開した形だった。

この事業部制は、今では多くの大企業で採用される一般的な組織形態となっている。各事業部が独自の戦略を立て、迅速な意思決定を行うことで、市場変化に柔軟に対応できる。幸之助は、自身の病弱という「弱み」を、むしろ革新的な経営システムを生み出す「強み」に変換したのである。

### ■不運と幸運はコインの裏表

幸之助は、自身の成功を「運が良かった」と語るが、それは単なる謙遜ではない。彼の真骨頂は、一見するとマイナスな状況をプラスに転換する思考力にあった。

象徴的なエピソードがある。創業間もない頃、大阪市内で自転車での配達中に自動車と衝突。幸之助は数メートル吹き飛ばされ、電車道に転倒する。そこへ電車が接近し、危機に直面する。しかし、電車は急ブレーキをかけ、九死に一生を得る。自転車は破損し、商品は散乱したものの、彼自身は無傷だった。一見、まさに「運が良かった

# スキルアップ通信 VOL.167

た」エピソードに見える。しかし、当時の大阪市内の自動車登録台数はわずか 5 台だったとか。ほとんど走っていない自動車に衝突し、死にかけるといふ状況は、むしろ「極めて運が悪い」と解釈することもできる。それを「運が良かった」と捉えるところに、特異な思考法が表れている。

後年、幸之助は成功の理由を「学歴がなかったからや。家が貧しかったからや。身体が弱かったからや」と語った。一般的にはハンディキャップとされる要素を、むしろ成功の要因として解釈し直したのである。

## ■運を味方につける方法

幸之助の思考の特徴は、「負の状況」を嘆くのではなく、そこから新たな可能性を見出そうとする姿勢にある。学歴がないからこそ、「常識」にとらわれず、「非常識」なアプローチができた。学が無く、会社勤めが厳しかったから、起業できた。起業しても、身体が弱かったからこそ、早くから権限委譲を進め、革新的な経営システムを構築できた。

これは単なるプラス思考とは一線を画す。むしろ、与えられた状況の中で最大限の成果を上げようとする、極めて実践的な思考法だ。

マイナスをプラスに変換する思考法、一見するとネガティブな状況でも、視点を変えることで機会に転換する柔軟性、そして何より、とりあえず動いてみる実行力だ。手数を増やすことが運を呼び込むのだ。

昨今、ビジネスの環境は急速に変化している。AI の台頭、地政学的リスクの増大、気候変動問題など、不確実性は増す一方だ。こうした時代において、「不安だ」「自分は不遇だ」と叫んでも何も始まらない。与えられた状況の中で最善を尽くす。とりあえず、手数を増やす——松下幸之助の思考法は、現代のビジネスパーソンにとって、今なお、重要な示唆を与えてくれるのではないだろうか。

PRESIDENT ONLINE より

## いつでも「絶好調」であるための 5 つの習慣。7 時間睡眠の人は病気になりにくい。

家事や仕事のパフォーマンスを高めるためには規則正しい健康的な生活習慣が第一。体やメンタルの疾患を予防し、本来持つ力を最大限発揮できるようになります。ストレスで折れないしなやかな心をつくるために、取り入れたい「5 つの習慣」を紹介します。

Esse online より

**1 : 朝散歩** イライラ抑え、やる気をアップさせる「セロトニン」。朝日を浴びて、リズム運動をすると活発に分泌されるようになります。また体内時計が朝日を浴びることでリセットされます。更には寝つきも良くなります。起床後 1 時間以内に、15 分を目安に散歩をしてみましょう。

**2 : 7 時間睡眠** 睡眠時間 7 時間の人がもっとも死亡率が低いというデータ結果があります。質のいい睡眠を十分な時間とすることで疲労回復し、日中も高いパフォーマンスを発揮できます。

**3 : 朝食は欠かさない** 「セロトニン」は咀嚼することで分泌が活発になります。脳のエネルギー源は「ブドウ糖」。低血糖だとずっとボーッとした状態が続いてしまいます。朝食をとって血糖値を安定させるとパフォーマンスがあがります。

**4 : カフェインは時間を決める** カフェインには眠気を覚ます、疲労回復、鎮痛、脂肪燃焼などの効果があります。しかしカフェインの「半減期」は平均 4 ～ 6 時間。遅い時間にカフェインをとると、寝つきが悪くなり、睡眠の質が低下するので、時間を決めて摂取しましょう。14 時以降は控えるのが無難です。

**5 : 体にいい食べ物をとる** 伝統的な和食は優秀な健康食。

- 野菜・果物…なるべく多種類を食べることが大切。とくにバナナはセロトニンを活性化させる栄養が豊富
- 玄米…玄米のビタミンやミネラルの多くは外皮に含まれるので、精製していない玄米がいい。
- いい油…オリーブオイル、ココナッツオイル、亜麻仁油は健康効果があります。動物性脂肪は避けましょう。
- ナッツ…木の実には「DHA」「EPA」といった「オメガ 3 脂肪酸」を含有。抗酸化作用あり。

朝の時間も大分過ごしやすい季節。絶好調な 1 日を過ごすためにまずは朝散歩から始めてみてはいかがでしょうか。